



CHAPTER 54

システム メッセージ ログिंगの設定

この章では、Cisco MDS 9000 ファミリ スイッチでシステム メッセージ ログिंगを設定する方法について説明します。内容は次のとおりです。

- 「システム メッセージ ログिंगについて」 (P.54-1)
- 「システム メッセージ ログिंगの設定」 (P.54-3)
- 「システム メッセージ ログング設定の配信」 (P.54-8)
- 「システム メッセージ ログング情報の表示」 (P.54-10)
- 「デフォルト設定」 (P.54-15)

システム メッセージ ログングについて

システム メッセージ ログング サーバを正しく設定します。システム メッセージは、Telnet、SSH、コンソール ポートのいずれかを通じてスイッチにアクセスするか、システム メッセージ ログング サーバ上のログを参照することにより、リモートで監視することもできます。



(注)

最初にスイッチを初期化するとき、初期化が完了するまでネットワークは接続されません。そのため、メッセージはシステム メッセージ ログング サーバに数秒間リダイレクトされます。

ログ メッセージは、システム再起動後には消去されています。ただし、重大度が Critical 以下 (レベル 0、1、2) の最大 100 個のログ メッセージは NVRAM に保存されます。

表 54-1 では、システム メッセージ ログでサポートされているファシリティの例について説明します。

表 54-1 内部ログング ファシリティ

ファシリティ キーワード	説明	標準であるか、または Cisco MDS 固有であるか
acl	ACL マネージャ	Cisco MDS 9000 ファミリ固有
all	すべてのファシリティ	Cisco MDS 9000 ファミリ固有
auth	許可システム	標準
authpriv	認証 (プライベート) システム	標準
bootvar	Bootvar	Cisco MDS 9000 ファミリ固有
callhome	Call Home	Cisco MDS 9000 ファミリ固有

表 54-1 内部ログング ファシリティ (続き)

ファシリティ キーワード	説明	標準であるか、または Cisco MDS 固有であるか
cron	cron ファシリティまたは at ファシリティ	標準
daemon	システム デーモン	標準
fcc	FCC	Cisco MDS 9000 ファミリ固有
fcdomain	fcdomain	Cisco MDS 9000 ファミリ固有
fcns	ネーム サーバ	Cisco MDS 9000 ファミリ固有
fcs	FCS	Cisco MDS 9000 ファミリ固有
flogi	FLOGI	Cisco MDS 9000 ファミリ固有
fspf	FSPF	Cisco MDS 9000 ファミリ固有
ftp	ファイル転送プロトコル	標準
ipconf	IP 設定	Cisco MDS 9000 ファミリ固有
ipfc	IPFC	Cisco MDS 9000 ファミリ固有
kernel	カーネル	標準
local0 ~ local7	ローカルに定義されたメッセージ	標準
lpr	ラインプリンタ システム	標準
mail	メール システム	標準
mcast	マルチキャスト	Cisco MDS 9000 ファミリ固有
module	スイッチング モジュール	Cisco MDS 9000 ファミリ固有
news	USENET ニュース	標準
ntp	NTP	Cisco MDS 9000 ファミリ固有
platform	プラットフォーム マネージャ	Cisco MDS 9000 ファミリ固有
port	ポート	Cisco MDS 9000 ファミリ固有
port-channel	PortChannel	Cisco MDS 9000 ファミリ固有
qos	QoS	Cisco MDS 9000 ファミリ固有
rdl	RDL	Cisco MDS 9000 ファミリ固有
rib	RIB	Cisco MDS 9000 ファミリ固有
rscn	RSCN	Cisco MDS 9000 ファミリ固有
securityd	セキュリティ	Cisco MDS 9000 ファミリ固有
syslog	内部システム メッセージ	標準
sysmgr	システム マネージャ	Cisco MDS 9000 ファミリ固有
tlport	TL ポート	Cisco MDS 9000 ファミリ固有
user	ユーザ プロセス	標準
uucp	UNIX 間コピー プログラム	標準
vhbad	仮想ホスト ベースアダプタ デーモン	Cisco MDS 9000 ファミリ固有
vni	仮想ネットワーク インターフェイス	Cisco MDS 9000 ファミリ固有
vrrp_cfg	VRRP の設定	Cisco MDS 9000 ファミリ固有

表 54-1 内部ログング ファシリティ (続き)

ファシリティ キーワード	説明	標準であるか、または Cisco MDS 固有であるか
vrrp_eng	VRRP エンジン	Cisco MDS 9000 ファミリ固有
vsan	VSAN システム メッセージ	Cisco MDS 9000 ファミリ固有
vshd	vshd	Cisco MDS 9000 ファミリ固有
wwn	WWN マネージャ	Cisco MDS 9000 ファミリ固有
xbar	クロスバー システム メッセージ	Cisco MDS 9000 ファミリ固有
zone	ゾーン サーバ	Cisco MDS 9000 ファミリ固有

表 54-2 に、システム メッセージ ログでサポートされている重大度を示します。

表 54-2 エラー メッセージの重大度

レベル キーワード	レベル	説明	システム メッセージ定義
emergencies	0	システムが使用不可	LOG_EMERG
alerts	1	即時処理が必要	LOG_ALERT
critical	2	クリティカルな状態	LOG_CRIT
errors	3	エラー状態	LOG_ERR
warnings	4	警告状態	LOG_WARNING
notifications	5	正常だが注意を要する状態	LOG_NOTICE
informational	6	情報メッセージだけ	LOG_INFO
debugging	7	デバッグ メッセージ	LOG_DEBUG



(注)

エラー ログ メッセージ フォーマットの詳細については、『Cisco MDS 9000 Family System Messages Reference』を参照してください。

システム メッセージ ログングの設定

システム ログング メッセージは、デフォルトの (または設定された) ログング ファシリティと重大度に基づいてコンソールに送信されます。

ここでは、次の内容について説明します。

- 「メッセージ ログングの開始」 (P.54-4)
- 「コンソールの重大度」 (P.54-4)
- 「モニタ重大度」 (P.54-5)
- 「モジュール ログング」 (P.54-5)
- 「ファシリティ重大度」 (P.54-5)
- 「ログ ファイル」 (P.54-6)
- 「システム メッセージ ログング サーバ」 (P.54-6)

メッセージ ログイングの開始

コンソールへのログイングをディセーブルにしたり、任意の Telnet や SSH のセッションへのログイングをイネーブルにできます。

- コンソール セッションへのログイングをディセーブルまたはイネーブルにすると、その状態は将来のすべてのコンソール セッションに適用されます。セッションを終了して新しいセッションに再度ログインした場合、状態は保持されます。
- Telnet セッションまたは SSH セッションへのログイングをイネーブルまたはディセーブルにした場合、その状態はそのセッションだけに適用されます。セッションを終了して新しいセッションに再度ログインした場合、状態は保持されません。

Telnet セッションまたは SSH セッションのログイング状態をイネーブルまたはディセーブルにするには、次の手順を実行します。

	コマンド	目的
ステップ1	switch# terminal monitor	Telnet または SSH セッションのログイングをイネーブルにします。 (注) コンソール セッションはデフォルトでイネーブルです。
ステップ2	switch# terminal no monitor	Telnet または SSH セッションのログイングをディセーブルにします。 (注) Telnet または SSH セッションはデフォルトでディセーブルです。

コンソールの重大度

コンソール セッションに対するログイングがイネーブルになっている場合 (デフォルト)、コンソールに表示されるメッセージの重大度を設定できます。コンソール ログイングのデフォルトの重大度は 2 (Critical) です。



ヒント

コンソールのボー レートが 9600 ボー (デフォルト) の場合、現在の Critical (デフォルト) ログイングレベルが維持されます。コンソール ログイング レベルを変更しようとする、必ずエラー メッセージが生成されます。ログイング レベルを上げる (Critical よりも上に) には、コンソールのボー レートを 38400 ボーに変更する必要があります。

「[コンソール ポート設定の変更](#)」(P.5-28) を参照してください。

コンソール セッションの重大度を設定するには、次の手順を実行します。

	コマンド	目的
ステップ1	switch# config t switch(config)#	コンフィギュレーション モードに入ります。
ステップ2	switch(config)# logging console 3	コンソール ログイングをレベル 3 (error) に設定します。重大度が 3 以上のログイング メッセージがコンソールに表示されます。
	switch(config)# no logging console	コンソール ログイングを工場出荷時のデフォルトの重大度 2 (critical) に戻します。重大度が 2 以上のログイング メッセージがコンソールに表示されます。

モニタ重大度

モニタ セッションに対するログイングがイネーブルになっている場合（デフォルト）、モニタに表示されるメッセージの重大度を設定できます。モニタ ログイングのデフォルトの重大度は 5（notifications）です。

モニタ セッションの重大度を設定するには、次の手順を実行します。

	コマンド	目的
ステップ 1	switch# config t switch(config)#	コンフィギュレーション モードに入ります。
ステップ 2	switch(config)# logging monitor 3	モニタ ログイングをレベル 3（error）に設定します。重大度が 3 以上のログイング メッセージがモニタに表示されます。
	switch(config)# no logging monitor	モニタ ログイングを工場出荷時のデフォルトの重大度 5（notifications）に戻します。重大度が 5 以上のログイング メッセージがコンソールに表示されます。

モジュール ログイング

デフォルトでは、すべてのモジュールに対してレベル 7 でログイングが有効になっています。各モジュールの対するログイングを、特定のレベルでイネーブルまたはディセーブルにできます。

モジュールのログイングをイネーブルまたはディセーブルにし、重大度を設定するには、次の手順を実行します。

	コマンド	目的
ステップ 1	switch# config t switch(config)#	コンフィギュレーション モードに入ります。
ステップ 2	switch(config)# logging module 1	すべてのモジュールのモジュール ログイングをレベル 1（alerts）に設定します。
	switch(config)# logging module	スイッチのすべてのモジュールのモジュール ログイングをデフォルトのレベル 5（notifications）に設定します。
	switch(config)# no logging module	モジュール ログイングをディセーブルにします。

ファシリティ重大度

ログイング ファシリティの重大度を設定するには（表 54-1 を参照）、次の手順を実行します。

	コマンド	目的
ステップ 1	switch# config t switch(config)#	コンフィギュレーション モードに入ります。
ステップ 2	switch(config)# logging level kernel 4	カーネル ファシリティの Telnet または SSH ログイングをレベル 4（warning）に設定します。その結果、重大度レベルが 4 以上のログイング メッセージが表示されます。
	switch(config)# no logging level kernel 4	カーネル ファシリティの Telnet または SSH ログイングのデフォルトの重大度 6（informational）に戻します。 (注) show logging info コマンドを使用して、表 54-1 に示されているファシリティのデフォルトのログイング レベルを表示します。

ログ ファイル

ログイング メッセージはログ ファイルに保存できます。必要に応じてこのファイルの名前を設定したり、そのサイズを制限できます。デフォルトのログ ファイル名は **messages** です。ファイル名の最大文字数は 80 文字で、ファイルサイズの範囲は 4096 ~ 4194304 バイトです。

ログ メッセージをファイルに送るには、次の手順を実行します。

	コマンド	目的
ステップ1	switch# config t switch(config)#	コンフィギュレーション モードに入ります。
ステップ2	switch(config)# logging logfile messages 3	重大度 3 以上の errors または events 以上の情報を messages という名前のデフォルト ログ ファイルに記録するように設定します。
	switch(config)# logging logfile ManagerLog 3	デフォルト サイズ 10,485,760 バイトを使用して、重大度 3 以上の errors または events の情報を ManagerLog という名前のファイルに記録するように設定します。
	switch(config)# logging logfile ManagerLog 3 size 3000000	重大度 3 以上の errors または events の情報を ManagerLog という名前のファイルに記録するように設定します。サイズの設定により、ファイル サイズを 3,000,000 バイトに制限しています。
	switch(config)# no logging logfile	ログファイルへのログイング メッセージをディセーブルにします。



(注) **logging logfile** コマンドを使用してログ ファイルの名前を変更できます。

設定したログ ファイルは、`/var/log/external` ディレクトリに保存されます。ログ ファイルの場所を変更できません。**show logging logfile** コマンドおよび **clear logging logfile** コマンドを使用して、このファイルの内容を表示および削除できます。**dir log:** コマンドを使用して、ログイング ファイルの統計情報を表示できます。**delete log:** コマンドを使用して、ログ ファイルを削除できます。

追加コピーの構文で **copy log:** コマンドを使用して、ログファイルを別の場所にコピーできます（「[コンフィギュレーション ファイルのコピー](#)」(P.9-5) を参照）。

システム メッセージ ログイング サーバ

最大 3 台のシステム メッセージ ログイング サーバを設定できます。

ログ メッセージを UNIX システム メッセージ ログイング サーバに送るには、UNIX サーバ上でシステム メッセージ ログイング デーモンを設定する必要があります。`root` でログインし、次の手順を実行します。

ステップ 1 次の行を `/etc/syslog.conf` ファイルに追加します。

```
local1.debug /var/log/myfile.log
```



(注) **local1.debug** と **/var/log/myfile.log** の間には、必ず 5 個のタブ文字を追加してください。詳細な例については、`/etc/syslog.conf` ファイルのエントリを参照してください。

スイッチは、指定されたファシリティ タイプと重大度に基づいて、メッセージを送信します。**local1** キーワードは、UNIX のログング ファシリティを使用することを指定します。スイッチからのメッセージは、ユーザ プロセスによって生成されます。**debug** キーワードは、ログに記録される状態の重大度を指定します。スイッチからのすべてのメッセージを受信するように UNIX システムを設定できます。

ステップ 2 UNIX シェル プロンプトに次のコマンドを入力して、ログ ファイルを作成します。

```
$ touch /var/log/myfile.log
$ chmod 666 /var/log/myfile.log
```

ステップ 3 次のコマンドを実行して、システム メッセージ ログング デーモンに新しい変更を読み込ませます。

```
$ kill -HUP ~cat /etc/syslog.pid~
```

システム メッセージ ログング サーバの IPv4 アドレスを設定するには、次の手順を実行します。

	コマンド	目的
ステップ1	switch# config t switch#	コンフィギュレーション モードに入ります。
ステップ2	switch(config)# logging server 172.22.00.00	ホスト名または IPv4 アドレス (172.22.00.00) で指定したリモートの複数のサーバに、指定したファシリティ タイプと重大度に従ってログ メッセージを転送するようにスイッチを設定します。
	switch(config)# logging server 172.22.00.00 facility local1	IPv4 アドレス (172.22.00.00) に指定したファシリティ (local1) に従ってログ メッセージを転送するようにスイッチを設定します。デフォルトの発信ファシリティは local7 です。
	switch(config)# no logging server 172.11.00.00	指定したサーバ (172.11.00.00) を削除し、出荷時のデフォルトに戻します。

システム メッセージ ログング サーバの IPv6 アドレスを設定するには、次の手順を実行します。

	コマンド	目的
ステップ1	switch# config t switch#	コンフィギュレーション モードに入ります。
ステップ2	switch(config)# logging server 2001::0db8:800:200c:417a	IPv6 アドレスで指定したリモート サーバに、指定したファシリティ タイプと重大度に従ってログ メッセージを転送するようにスイッチを設定します。
	switch(config)# logging server 2001::0db8:800:200c:417a facility local1	サーバの IPv6 アドレスに指定したファシリティ (local1) に従ってログ メッセージを転送するようにスイッチを設定します。デフォルトの発信ファシリティは local7 です。
	switch(config)# no logging server 2001::0db8:800:200c:417a	指定したサーバを削除し、出荷時のデフォルトに戻します。

出力されるシステム メッセージ ログング サーバ ファシリティ

すべてのシステム メッセージには、ログング ファシリティとレベルがあります。ログング ファシリティは場所、レベルは対象と考えることができます。

単一のシステム メッセージ ログイング デーモン (syslogd) が、設定されている **facility** オプションに基づいて情報を送信します。ファシリティが指定されていない場合、local7 がデフォルトの送信ファシリティとなります。

内部ファシリティの一覧は表 54-1 に記載されており、送信ログイング ファシリティの一覧は表 54-3 に記載されています。

表 54-3 送信ログイング ファシリティ

ファシリティ キーワード	説明	標準であるか、または Cisco MDS 固有であるか
auth	許可システム	標準
authpriv	認証 (プライベート) システム	標準
cron	cron ファシリティまたは at ファシリティ	標準
daemon	システム デーモン	標準
ftp	ファイル転送プロトコル	標準
kernel	カーネル	標準
local0 ~ local7	ローカルに定義されたメッセージ	標準 (デフォルトは local7)
lpr	ラインプリンタ システム	標準
mail	メール システム	標準
news	USENET ニュース	標準
syslog	内部システム メッセージ	標準
user	ユーザ プロセス	標準
uucp	UNIX 間コピー プログラム	標準

システム メッセージ ログイング設定の配信

ファブリック内のすべての Cisco MDS スイッチで、ファブリック配信をイネーブルにできます。システム メッセージ ログイングを設定した場合、配信がイネーブルになっていると、その設定がファブリック内のすべてのスイッチに配信されます。

スイッチでの配信をイネーブルにした後で最初のコンフィギュレーション コマンドを発行すると、ファブリック全体が自動的にロックされます。システム メッセージ ログイング サーバは、有効/保留 データベース モデルを使用して、設定をベースにコマンドを保存またはコミットします。設定の変更を確定すると、有効データベースが保留データベースの設定変更で上書きされ、ファブリック内のすべてのスイッチで設定が同じになります。設定を変更した後、変更を廃棄するには、変更を確定せずに中断します。いずれの場合でも、ロックは解除されます。CFS アプリケーションの詳細については、第 7 章「CFS インフラストラクチャの使用」を参照してください。

システム メッセージ ログイング サーバ設定のファブリック配信をイネーブルにするには、次の手順を実行します。

	コマンド	目的
ステップ1	switch# <code>config t</code>	コンフィギュレーション モードに入ります。

	コマンド	目的
ステップ 2	<code>switch(config)# logging distribute</code>	ファブリック内のすべてのスイッチにシステム メッセージ ログイング サーバ設定を配信できるようにして、ロックを取得し、保留データベースへのすべての将来の設定変更を保存します。
	<code>switch(config)# no logging distribute</code>	ファブリック内のすべてのスイッチへのシステム メッセージ ログイング サーバ設定の配信をディセーブル (デフォルト) にします。

システム メッセージ ログイング サーバの設定変更をコミットするには、次の手順を実行します。

	コマンド	目的
ステップ 1	<code>switch# config t</code>	コンフィギュレーション モードに入ります。
ステップ 2	<code>switch(config)# logging commit</code>	ファブリック内のすべてのスイッチに設定変更を配信し、ロックを解除して、保留データベースへの変更で有効なデータベースを上書きします。

システム メッセージ ログイング サーバの設定変更を廃棄するには、次の手順を実行します。

	コマンド	目的
ステップ 1	<code>switch# config t</code>	コンフィギュレーション モードに入ります。
ステップ 2	<code>switch(config)# logging abort</code>	保留データベースのシステム メッセージ ログイング サーバの設定変更を廃棄し、ファブリック ロックを解除します。

ファブリックのロックの上書き

システム メッセージ ログイングで作業を行い、変更の確定か廃棄を行ってロックを解除するのを忘れた場合、管理者はファブリック内の任意のスイッチからロックを解除できます。管理者がこの操作を行うと、ユーザによる保留データベースの変更は廃棄され、ファブリックのロックは解除されます。



ヒント

変更は `volatile` ディレクトリだけで使用でき、スイッチを再起動すると廃棄されます。

管理者権限を使用して、ロックされたシステム メッセージ ログイング セッションを解除するには、`clear logging session` コマンドを使用します。

```
switch# clear logging session
```

データベース マージの注意事項

概念の詳細については、「[CFS マージのサポート](#)」(P.7-9) を参照してください。

2つのシステム メッセージ ログイング データベースをマージする場合は、次の注意事項に従ってください。

- マージされたデータベースは、ファブリック内のスイッチごとに存在する受信データベースを結合したものになることに注意してください。
- マージされたデータベースに、最大で3つのシステム メッセージ ログイング サーバしか含まれないことを確認してください。



注意

マージされたデータベースに含まれるサーバが3台を超えると、そのマージは失敗します。

システム メッセージ ログイング情報の表示

現在のシステム メッセージ ログイング設定を表示するには、**show logging** コマンドを使用します。例 [54-1](#) ~ [54-10](#) を参照してください。



(注)

show logging コマンドを使用すると、スイッチで設定されているログイング レベルがデフォルトのレベルと違う場合にだけ出力が表示されます。

例 54-1 現在のシステム メッセージ ログイングの表示

```
switch# show logging
Logging console:          enabled (Severity: critical)
Logging monitor:         enabled (Severity: debugging)
Logging linecard:        enabled (Severity: debugging)
Logging server:          enabled
{172.20.102.34}
    server severity:      debugging
    server facility:      local7
{10.77.202.88}
    server severity:      debugging
    server facility:      local7
{10.77.202.149}
    server severity:      debugging
    server facility:      local7
Logging logfile:         enabled
Name - messages: Severity - debugging Size - 4194304
Facility      Default Severity      Current Session Severity
-----
kern          6                      6
user          3                      3
mail          3                      3
daemon        7                      7
auth          0                      7
syslog        3                      3
lpr           3                      3
news          3                      3
uucp          3                      3
cron          3                      3
authpriv      3                      7
ftp           3                      3
```

local0	3	3
local1	3	3
local2	3	3
local3	3	3
local4	3	3
local5	3	3
local6	3	3
local7	3	3
vsan	2	2
fspf	3	3
fcdomain	2	2
module	5	5
sysmgr	3	3
zone	2	2
vni	2	2
ipconf	2	2
ipfc	2	2
xbar	3	3
fcns	2	2
fcs	2	2
acl	2	2
tlport	2	2
port	5	5
flogi	2	2
port_channel	5	5
wnn	3	3
fcc	2	2
qos	3	3
vrrp_cfg	2	2
ntp	2	2
platform	5	5
vrrp_eng	2	2
callhome	2	2
mcast	2	2
rdl	2	2
rscn	2	2
bootvar	5	2
securityd	2	2
vhbad	2	2
rib	2	2
vshd	5	5
0(emergencies)	1(alerts)	2(critical)
3(errors)	4(warnings)	5(notifications)
6(information)	7(debugging)	

```
Feb 14 09:50:57 excal-113 %TTYD-6-TTYD_MISC: TTYD TTYD started
Feb 14 09:50:58 excal-113 %DAEMON-6-SYSTEM_MSG: precision = 8 usec
...
```

NVRAM に保存されたログ メッセージを表示するには、**show logging nvram** コマンドを使用します。重大度が **Critical** 以下（レベル 0、1、2）のログ メッセージだけが NVRAM に保存されます。

例 54-2 NVRM ログの内容の表示

```
switch# show logging nvram
Jul 16 20:36:46 172.22.91.204 %KERN-2-SYSTEM_MSG: unable to alloc and fill in a
new mtsbuf (pid=2209, ret_val = -105)
Jul 16 20:36:46 172.22.91.204 %KERN-2-SYSTEM_MSG: unable to alloc and fill in a
new mtsbuf (pid=2199, ret_val = -105)
Jul 16 20:36:46 172.22.91.204 %KERN-2-SYSTEM_MSG: unable to alloc and fill in a
new mtsbuf (pid=2213, ret_val = -105)
Jul 16 20:36:46 172.22.91.204 %KERN-2-SYSTEM_MSG: unable to alloc and fill in a
new mtsbuf (pid=2213, ret_val = -105)
```

...

例 54-3 ログ ファイルの表示

```
switch# show logging logfile
Jul 16 21:06:50 %DAEMON-3-SYSTEM_MSG: Un-parsable frequency in /mnt/pss/ntp.drift
Jul 16 21:06:56 %DAEMON-3-SYSTEM_MSG: snmpd:snmp_open_debug_cfg: no snmp_saved_dbg_uri ;
Jul 16 21:06:58 172.22.91.204 %PORT-5-IF_UP: Interface mgmt0 is up
Jul 16 21:06:58 172.22.91.204 %MODULE-5-ACTIVE_SUP_OK: Supervisor 5 is active
...
```

例 54-4 コンソール ログング ステータスの表示

```
switch# show logging console
Logging console:                enabled (Severity: notifications)
```

例 54-5 ログング ファシリティの表示

```
switch# show logging level
```

Facility	Default Severity	Current Session Severity
-----	-----	-----
kern	6	6
user	3	3
mail	3	3
daemon	7	7
auth	0	7
syslog	3	3
lpr	3	3
news	3	3
uucp	3	3
cron	3	3
authpriv	3	7
ftp	3	3
local0	3	3
local1	3	3
local2	3	3
local3	3	3
local4	3	3
local5	3	3
local6	3	3
local7	3	3
vsan	2	2
fspf	3	3
fcdomain	2	2
module	5	5
sysmgr	3	3
zone	2	2
vni	2	2
ipconf	2	2
ipfc	2	2
xbar	3	3
fcns	2	2
fcs	2	2
acl	2	2
tlport	2	2
port	5	5
flogi	2	2
port_channel	5	5
wnn	3	3

```

fcc                2                2
qos                3                3
vrrp_cfg          2                2
ntp               2                2
platform          5                5
vrrp_eng          2                2
callhome          2                2
mcast             2                2
rdl               2                2
rscn              2                2
bootvar           5                2
securityd         2                2
vhbad             2                2
rib               2                2
vshd              5                5
0 (emergencies)  1 (alerts)      2 (critical)
3 (errors)        4 (warnings)    5 (notifications)
6 (information)  7 (debugging)

```

例 54-6 ログング情報の表示

```

switch# show logging info
Logging console:          enabled (Severity: critical)
Logging monitor:         enabled (Severity: debugging)
Logging linecard:        enabled (Severity: debugging)
Logging server:          enabled
{172.20.102.34}
    server severity:      debugging
    server facility:      local7
{10.77.202.88}
    server severity:      debugging
    server facility:      local7
{10.77.202.149}
    server severity:      debugging
    server facility:      local7
Logging logfile:         enabled
Name - messages: Severity - debugging Size - 4194304
Facility      Default Severity      Current Session Severity
-----
kern          6                      6
user          3                      3
mail          3                      3
daemon       7                      7
auth          0                      7
syslog       3                      3
lpr           3                      3
news         3                      3
uucp         3                      3
cron         3                      3
authpriv     3                      7
ftp          3                      3
local0       3                      3
local1       3                      3
local2       3                      3
local3       3                      3
local4       3                      3
local5       3                      3
local6       3                      3
local7       3                      3
vsan         2                      2
fspf         3                      3
fcdomain     2                      2
module       5                      5

```

■ システム メッセージ ログイング情報の表示

sysmgr	3	3
zone	2	2
vni	2	2
ipconf	2	2
ipfc	2	2
xbar	3	3
fcns	2	2
fcs	2	2
acl	2	2
tlport	2	2
port	5	5
flogi	2	2
port_channel	5	5
wnn	3	3
fcc	2	2
qos	3	3
vrrp_cfg	2	2
ntp	2	2
platform	5	5
vrrp_eng	2	2
callhome	2	2
mcast	2	2
rdl	2	2
rscn	2	2
bootvar	5	2
securityd	2	2
vhbad	2	2
rib	2	2
vshd	5	5
0 (emergencies)	1 (alerts)	2 (critical)
3 (errors)	4 (warnings)	5 (notifications)
6 (information)	7 (debugging)	

例 54-7 ログ ファイルの最後の数行の表示

```
switch# show logging last 2
Nov 8 16:48:04 excal-113 %LOG_VSHD-5-VSHD_SYSLOG_CONFIG_I: Configuring console from pts/1
(171.71.58.56)
Nov 8 17:44:09 excal-113 %LOG_VSHD-5-VSHD_SYSLOG_CONFIG_I: Configuring console from pts/0
(171.71.58.72)
```

例 54-8 スイッチング モジュール ログイング ステータスの表示

```
switch# show logging module
Logging linecard: enabled (Severity: debugging)
```

例 54-9 モニタ ログイング ステータスの表示

```
switch# show logging monitor
Logging monitor: enabled (Severity: information)
```

例 54-10 サーバ情報の表示

```
switch# show logging server
Logging server: enabled
{172.22.95.167}
server severity: debugging
```

```

server facility:      local7
{172.22.92.58}
server severity:     debugging
server facility:     local7

```

デフォルト設定

表 54-4 に、システム メッセージ ログिंगのデフォルト設定値の一覧を示します。

表 54-4 システム メッセージ ログのデフォルト設定値

パラメータ	デフォルト
コンソールへのシステム メッセージ ログ ング	Critical 重大度のメッセージに対してイネーブル
Telnet セッションへのシステム メッセージ ログ ング	ディセーブル
ログ ング ファイル サイズ	4194304
ログ ング ファイル名	メッセージ (最大 200 文字の名前に変更可能)
ログ ング サーバ	ディセーブル
Syslog サーバの IP アドレス	設定されていません。
サーバ数	3 台
サーバ機能	local7

